

4月末に調査した2004年5月の「消費意欲指数」の結果がまとまりました。  
2004年5月の消費意欲は、先月から0.3ポイント下降し、  
50.4でした。

前年同月比で、1.4ポイントDOWN。5月としてはワースト記録。

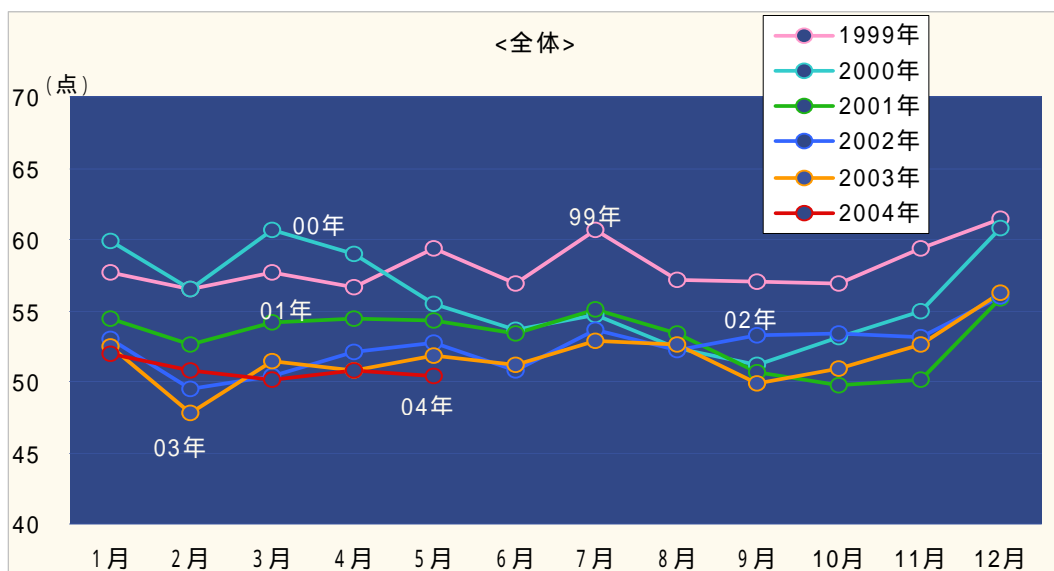
「消費意欲指数」は、月別の消費の先行指標として、1993年より注目されているデータです。

4月末時点で、博報堂生活総合研究所の調査パネルである一般生活者420名に対し「消費意欲(モノを買いたい、サービスを利用したいという欲求)が最高に高まった状態を100点とすると、あなたの5月の消費意欲は何点ぐらいでしょうか?」と質問した結果が、「5月の消費意欲指数」です。

この消費意欲指数は、月別の消費を占う先行指標として、1993年4月の調査開始以来、幅広く活用して頂いています。

2004年5月、消費意欲指数は、先月から0.3ポイント下降し、50.4点でした。

今月の消費意欲指数は、50.4(先月50.7から0.3ポイントDOWN)となりました。前年同月比でも1.4ポイントDOWNで5月としてはワースト記録となっており、相変わらず低空飛行が続いています。消費意欲不振の原因について、同時に調査を実施している生活力点から探してみると、「日常的な小さな買い物」(前年比+1.2)、「中くらいの買い物」(同±0)、「大きな値の張る買い物」(同-2.1)と、物品購入に関しては大きな買い物への意欲以外は、さほど消費意欲は低下していません。しかしながら、「人付き合い」(前年比-3.7)、「趣味・遊び」(-3.4)、「家事・家のこと」(-3.8)と、交際やレジャーに対する意欲低下が目立っています。



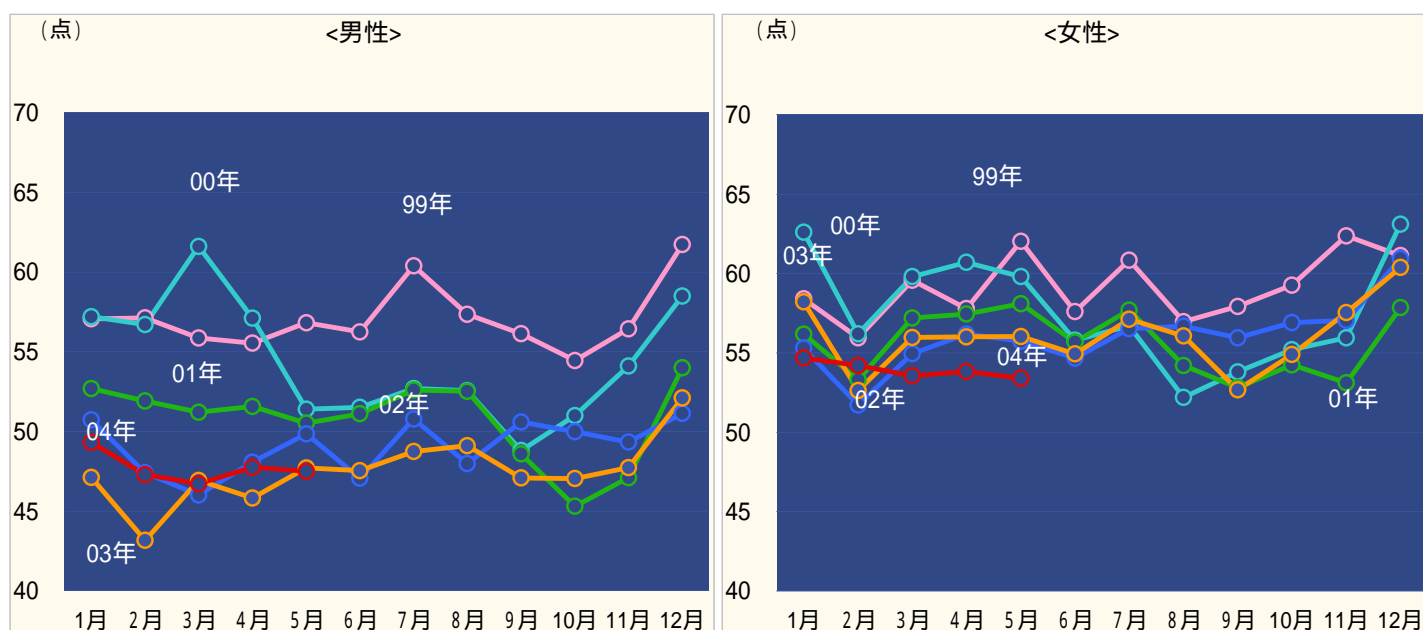
## 女性の消費意欲が相変わらず不調。

男女別では先月と同様、女性の消費意欲の低さが際立っています。

前月との比較では、男性の消費意欲指数が-0.2、女性は-0.4。

前年との比較では、男性の消費意欲指数が-0.2、女性は-2.6と、女性の前年比での落ち込みが目立ちます。

生活力点の女性の数値を見てみると、特に、「人付き合い」が前年比マイナス4.9、「趣味・遊び」が前年比マイナス4.8と、交際・レジャーへの意欲低下が特に女性層で顕著であることが分かります。このように、女性にとって根幹となる欲求が揺らいでいる背景には、年金問題における政治不信やイラク問題など、生活不安を与える事件が女性の身近で生じていることが要因として挙げられそうです。



博報堂生活総合研究所のHP ([www.athill.com](http://www.athill.com))では、「消費意欲指数」も含め、生活者に関する調査データにご自由にアクセスすることが可能となっております。是非一度ご覧ください。

【調査概要:HILL ネット調査】

調査地域:首都圏 / 調査対象者: 19~73才の男女個人420人 / 調査方法:郵送法

本件に関する詳細のお問い合わせは  
博報堂生活総合研究所 (03-3233-6450) までお願いいたします。

